

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- 14日は、発達した低気圧が日本の南から南東海上へ進む。別の低気圧がオホーツク海に進む。大陸の高気圧が日本付近に張り出す。
- 15日は、高気圧が東シナ海に移動して日本付近を覆う。
- 16日から17日にかけて、高気圧が日本の東へ移動し、本州南岸付近が気圧の谷となる。
- 18日は、低気圧がオホーツク海に進み、高気圧が黄海付近に移動する。

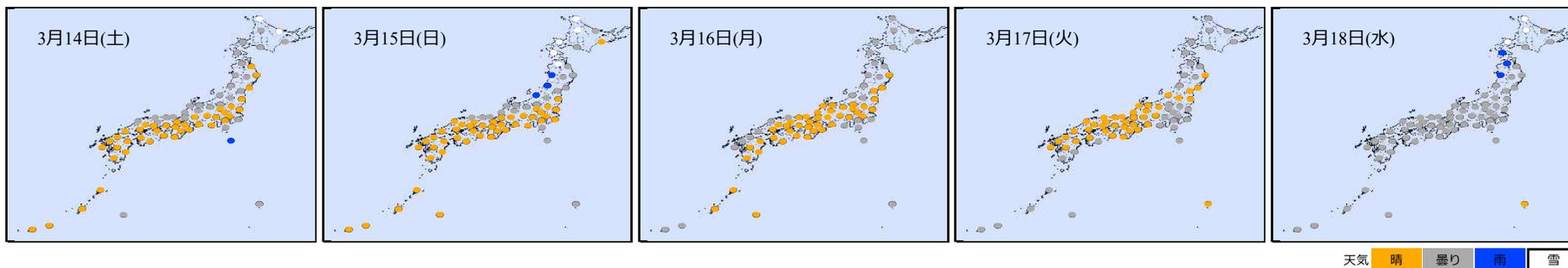
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 15日頃にかけて、発達した低気圧の影響で、東日本太平洋側では大しけとなる所があり、低気圧の発達程度等によっては大荒れや警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

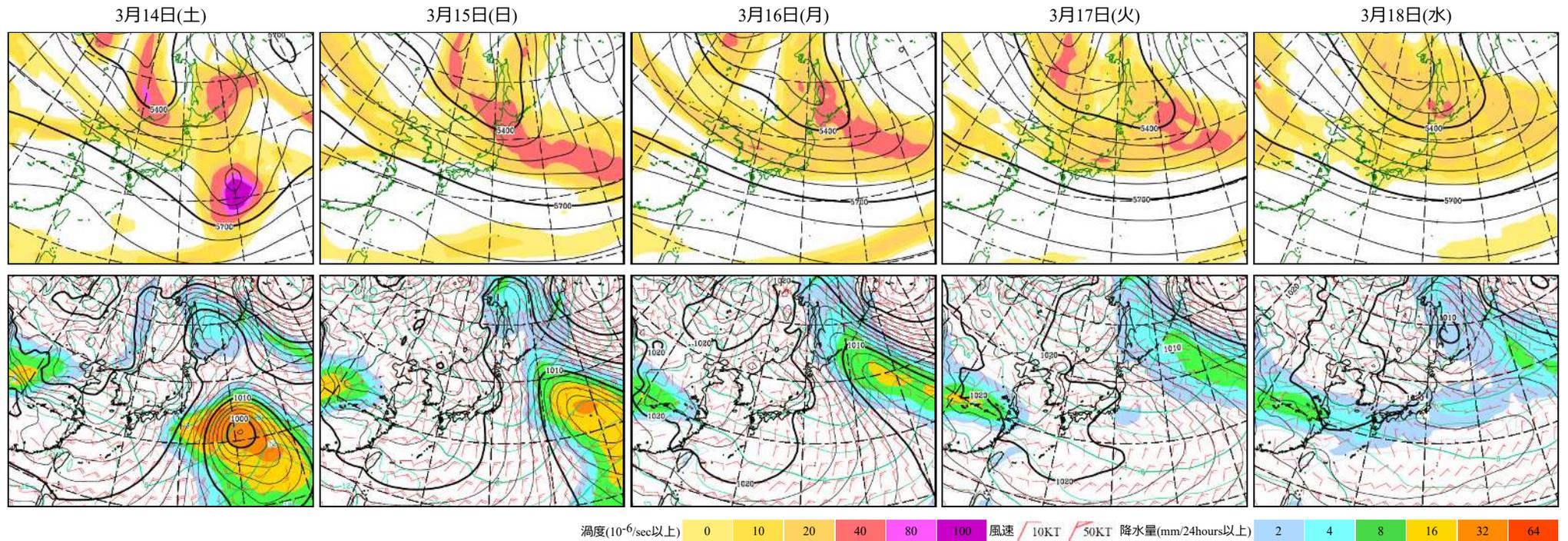
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

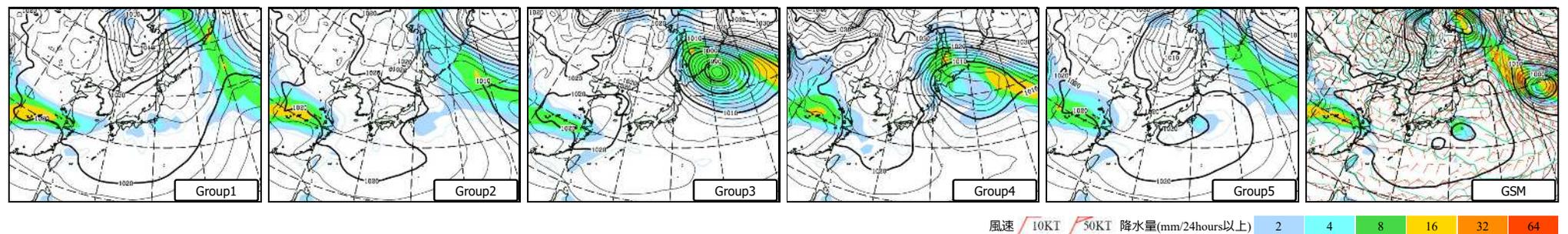


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、雲が広がりやすく雪または雨の降る所がある。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、14日から16日は晴れる所が多い。17日と18日は雲が広がりやすい。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆3月17日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、15日に北海道付近に進むトラフが深くなり、東進が早くなった。地上の気圧配置の予想には、大きな初期値変わりはない。
- 15日に北日本に進むトラフは、各モデルともに初期値変わりが見られるが、モデル間の差は小さい。17日以降のトラフ、リッジの予想については、モデル間の差が大きくなっている。
- 17日は、関東地方付近に低気圧を予想するモデルが多い。ENSには同様の予想をするメンバーも多いが、他のモデルと異なり、低気圧が北日本付近で発達するメンバーもある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。